

菅尾石仏・大飼石仏

感染症の影響で遠出がしづらく、また密を避ける生活を皆さん送っておられることと思います。そんな窮屈な日常ではありますが、ふと身近なところに素敵なものがあることに気づかれました。三重町に住んで20年、初めて「菅尾石仏」、「大飼石仏」を訪れました。静謐な空間に身を置き、ひと時の安らぎを得ることが出来ました。

# ひがしの空から

～幸せな人生へのお手伝い～

## CONTENTS

### ✿ コロナ禍

～小児症例の特徴とワクチンに関して～

### ✿ 清川町とマズロー

訪問診療とは

三重東クリニックでは、介護に関するご相談を承っております

マイペット紹介

編集後記

表紙写真・文：飯尾 文昭（三重東クリニック副院長）





# コロナ禍 小児症例の特徴と ワクチンに関して

副院長 別府 幹庸



2019年末に中華人民共和国の武漢で始まったとされる新型コロナウイルス感染症は、現在の国同士の密接な関係から、瞬く間に全世界に流行が拡大してしまいました。特に、ヨーロッパとアメリカ合衆国では感染の爆発が起こり、多くの感染者、および死者が出ています。我が国でも、2回にわたる緊急事態宣言が発出され、流行の波は第3波まで確認されています。

大分県においても、昨年3月に大分市東部地域での4病院の感染事例など、大きく話題になりました。また、豊後大野市でも、小児を含む感染事例がみられており、まさに足下まで感染拡大が来ていました。

さて、新型コロナウイルスに感染したときに重症化する割合は年齢によって違っているとされています。特に、高齢の方々に感染した場合は重症化して人工

呼吸が必要になったりする割合が、若い人達よりも高いことがわかっています。そして小児とされる年齢層ではほとんど重症化せずに経過し、治ってしまします。この反応の違いはどこに原因があるのでしょうか？これは、はっきりとした原因はわかっていませんが、いくつかの仮説があります。

1. 小児は、強力な自然免疫を持っている。これが、新型コロナウイルスに対する強力な防御になる

小児は、何度もウイルス感染にさらされます。これが、自然にウイルスを体内から排除する能力を強くして、新型コロナウイルスであっても排除してしまうということなのです。

2. 健康な小児は自然な状態でのどに共生菌を持っている。これが新型コロナウイルスの感染を抑えている

鼻やのどに正常な状態でも存在する、善玉のバイ菌が新型コロナウイルスの侵入を防いでいるという考えです。

3. 成人に比較して、血管が傷害されておらず、新型コロナウイルス感染で生じる、血栓

ができない

子どもは動脈硬化という、血管がポロポロになる変化が大人とくらべて進んでい



ません。これが、新型コロナウイルス感染時に大人であればできて

いる血管の中の「血のかたまり」ができないのか？そして、これが重症化しない原因となっているのではないかと考えています。

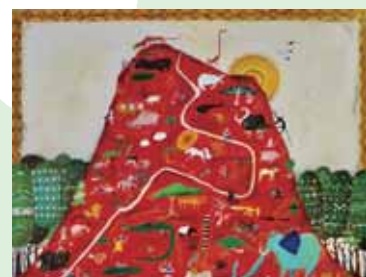
いづれにしろ、小児は新型コロナウイルス感染があっても重症化はほとんどせずに軽快するようです。

また、小児から小児、あるいは小児から成人への感染はほとんどみられず、小児患者が原因となったクラスターは世界中探してもほとんどありません。

ただし、小児で新型コロナウイルス感染症が診断されたときには、周囲に感染があることがほとんどで、周囲に感染した人がいないか？調べる必要があります。また、小児での感染症発見が

もとなつて、クラスターの全容が早期に見えてくることもあり、結果として感染の拡大を抑えることができることがあります。ですから、小児は新型コロナウイルス感染症になってもほとんどは軽症で済みますが、「その児が新型コロナウイルス感染症であるという

ことを診断する」必要がないわけではなく、積極的に診断する意義があります。



新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの話題は、巷を賑わせています。この感染症はものすごいスピードで全世界を飲み込みました。在来型のワクチンは、病原体であるウイルスを人工的に育てて、その後、「体に入れても病気を発症しない」ようにする行程を経てヒトに接種されるようになります。このタイプのワクチンは、開発に手間取り2〜3年はかかりますし、有効率も低いのです。

今回、話題になっているmRNAワクチンは、今までのワクチンとはまったく別の手法で作られています。そして、このワクチンは、3週間あれば新しい設計のものを作ることができま

す。さらに効果は、南米で行われた試験によると、3週間間隔で2回接種した場合、接種後1週間以上経過したときに、偽薬を接種した人たちと比べて、90%以上の感染を防いだとの結果があります。

検証が進んでいる途中ですが、アナフィラキシーなどの重い副反応も、そこまで多くなく問題なく接種が進められそうです。

皆様には、このワクチンを接種いただき、「コロナ禍を乗り越える力を社会にいただければ！」と思います。



## 清川町とマズロー

事務長 甲斐 敏幸



る。一昨年来の診療所存続についての地元住民との対話のなかで、私は忘れかけたものを思い出した気がする。活性を鼓舞し、診療所をもう一度守り立てようと話す人がたくさんいた。地域医療は提供する側の一方的なものではない。住民と医療の相互がお互いに助け合い、信頼のうえに成立するものだ。私たちの文化は、お互いを支え合う、豊かなコミュニティだということを教えてもらった。

さて、マズローが考えるのは、欧米人の思想であり、己の実現が優先する。確かに自分の目標が実現され、社会に還元できるのは望ましいこと。しかし、日本人は自己犠牲で人のためになり、社会に役立つことであれば、もっと崇高な達成感が得られると感じる。自己犠牲ゆえの尊厳的な満足度を得ることが、単なる自己実現よりも価値を持つ。つまり、四番目の承認（尊重・尊厳）の欲求が五番目を超越するということだ。それは、「私」を捨て「公」に生きる日本人の倫理観であり、それを感じるからこそその喜びとなる。いつか林修先生がマズローを説明していて、自分と同じ考えを話していたので、とても嬉しかった。側面的に考えれば、己に固執することは執着であり、仏教の放下とは異なる。日本人以外ならマズローに納得するかもしれない。世界はこのような思想で成り立っているが、

1. 生理的欲求  
(Physiological needs)
2. 安全の欲求 (Safety needs)
3. 社会的欲求／所属と愛の欲求  
(Social needs / Love and belonging)
4. 承認（尊重・尊厳）の欲求  
(Esteem)
5. 自己実現の欲求  
(Self-actualization)

清川診療所を豊後大野市からお引き受けて、十年が経過しようとしてい

それは西洋思想であり、日本人とは相容れないものだ。

私は清川町の方々と接しながら、その崇高な精神と地域を愛する心に敬意を感じ、マズローを思い出した。清川町全体の義務を負う存在として、私たち医療者もその一端に加えてほしい。グローバルな混沌と多様性のなかで、それでも清川町の方々は、それぞれの役割を模索し続けている。



## 訪問診療とは



様々な理由で通院が困難な患者様のご自宅等に医師が定期的にお伺いし、計画的に健康管理を行うことです。定期的の訪問に加え、緊急時には365日×24時間体制で対応、必要に応じて臨時往診や入院先の手配などを行います。訪問診療の最大のメリットは、「住み慣れたお家で医療を受けられる」とことです。長引く治療や入院生活は患者さんにとって、身も心も大きな負担になり、入院生活の場合、他の方と一緒に生活をするということになり、様々なことに制限が出てきてしまいます。知らない方たちに囲まれて、長期間生活をするのは誰にとっても大きな負担になります。そんな生活に対して、訪問診療の場合は、家族とこれまでと変わらず生活を行うことが可能です。

その他、患者様・ご家族の医療に関する相談、生活面におけるアドバイス、様々な職種や関係機関との連携、調整を行います。

三重東クリニック・三重東介護サポートセンター三つ葉では、患者様やご家族の想いを大切に、心の通った医療を提供します。ご相談等がありましたら、医師又はケアマネジャーまでお気軽にお問い合わせください。



## 三重東クリニックでは、介護に関するご相談を承っております

- 三重東介護サポートセンター三つ葉では、介護保険サービスと高齢者福祉サービスのご相談を受けて、必要なサービスが利用できるように、医療と連携して支援を行っています。ケアマネジャー（介護支援専門員）の資格をもった職員が、ご利用者やご家族と話し合いをしながら、その人らしい生活ができるように支援を行っていきます。
- ・気になることがあれば、お気軽にご相談下さい。
  - ・最近、足の筋力が落ちて、つまずく事が多くなった。
  - ・体力が落ちて、家事をするのがつらくなった。
  - ・外を歩く時に疲れるので、歩行補助具がほしい。
  - ・食事でむせることが多くなった。
  - ・自宅で入浴するのに、一人では不安になった。
  - ・日中一人で過ごすことが多くなって、外出する機会がほしい。
  - ・排泄面で気になることがある。
  - ・薬を飲み忘れることがある。
  - ・健康に関する相談をしたい。
  - ・物忘れが出てきた。または気になる。

※一例です。

★希望される方は、医師や看護師または受付の事務職員まで、お知らせ下さい。直接、電話でも受付をしています。

直通電話 0974-22-7715

(三重東介護サポートセンター三つ葉)

(月～金の8:30～17:30  
まで、土日祝日はお休み)

※当事業所は、三重東クリニックの建物内にあります。

## マイペット

内科医長 木崎 佑介

今回は医療の内容を離れ、うちのペットを紹介します。

キャバリア・キング・チャールズ・スパニエルという犬種で、名前は「茶豆<sup>ちゃまめ</sup>」といいます。我が家に来て、早6年が過ぎました。

「茶豆」は、子供達の成長と共に過ごしました。子供達にとって「茶豆」との触れ合いは、かけがえのない触れ合いのようです。

さて、犬の6歳は、人間でいうと私と同じ40歳前後に相当するそうです。先日歩き方がおかしく、動物病院に行ったら腰椎椎間板ヘルニアのようです。目下療養中です。体重が増えるのと腰に悪影響なので、食事の量を減らしていますが、食いしん坊の「茶豆」には堪えるようです。

そんな「茶豆」は私が仕事から帰ったら、出迎えてくれます。そのキュートな笑顔に1日の疲れが吹っ飛びます。昨年までは玄関先でじゃれあっていたのですが、この1年でじゃれあう前に手洗いとうがいをする様になりました。時代ですね。

寒かった今年の冬も終わろうとしています。春になったらお弁当と犬のおやつを持って、満開の桜の花を見に行きたいです。



## 編集後記

「三重町と山頭火」

若い頃、尾崎放哉や種田山頭火の句を読んだ。その頃は漂泊やデラシネ(仏語…根無し草)という言葉が、若者のキーワードになっていた。高倉健さんの遺作「あなたへ」のラストシーンに、山頭火の句が出てくる。「このみちやいくたりゆきし われはけふゆく」。

三重町には山頭火が飲んだ湧水がある。「行乞してゐると、人間の一言一行が、どんなに人間の心を動かすものであるかを痛感する、うれしい事でも、おもしろくない事でも」。行く先々で、土地の人は何か奪われるのではないかと入り込まれるのではないかと訝った。しかし、山頭火は後生の人たちに言葉という勇気を与え続けている。決して奪うのではなく。芸術に時間の隔たりや国境はない。

いまここ、その刹那の感性を昇華し続けた山頭火の思いだからこそ人々の心を奪い続ける。「行乞記」を読むと、彼が目指した飾り気のない真実に触れることができる。

(甲斐)



広報誌『ひがしの空から』

発行：社会医療法人 関愛会 三重東クリニック

〒879-7104 大分県豊後大野市三重町小坂4109-61

Tel. 0974-22-6333 Fax. 0974-22-6341

